

(様式第 1 号)

平成 30 年 5 月 2 日

認定介護福祉士認証・認定機構
理事長 様

領 域 名 : 医療に関する領域
科 目 名 : 疾患・障害等のある人への生活支援・連携Ⅱ
単 位 数 : 2
認証申請する研修の名称 : 認定介護福祉士養成研修

団体名 : 公益社団法人
日本介護福祉士養成施設協会
群馬県介護福祉士養成校協議会 一般社団法人 群馬県介護福祉士会
団体事務所 : 〒371-0823 〒371-8525
の所在地 群馬県前橋市川曲町 191-1 群馬県前橋市新前橋町 13-12
電話 : 025-253-0294 027-255-6226
FAX : 027-254-0294 027-255-6173
E-mail : shimizu-k@shoken-gakuen.ac.jp

下記書類を添えて上記科目に対する研修の認証を申請します。

団体代表者 : 鈴木 利定 ㊞

団体代表者 : 小池 昭雅 ㊞

申請責任者 : 白井 幸久

記

○認定介護福祉士研修認証申請書 (別紙 1 ~ 3)

<機構使用欄>

受付	
確認	
委員付託	
追加連絡	
評価報告	
理事会承認	
認証番号	

認定介護福祉士研修認証申請書

申請年月日	平成 30 年 5 月 2 日
申請団体名	公益社団法人 日本介護福祉士養成施設協会 群馬県介護福祉士養成校協議会 一般社団法人 群馬県介護福祉士会
申請団体代表者氏名	鈴木 利定 小池 昭雅
申請責任者職名 申請責任者氏名	群馬医療福祉大学 短期大学部 教授 白井 幸久
団体住所 同 Tel・Fax メールアドレス	群馬医療福祉大学短期大学部 〒371-0823 群馬県前橋市川曲町 191-1 Tel : (025)-(253)-(0294) Fax : (027)-(254)-(0294) E-mail <u>shimizu-k@shoken-gakuen.ac.jp</u> 一般社団法人 群馬県介護福祉士会 〒371-8525 群馬県前橋市新前橋町 13-12 Tel : (027)-(255)-(6226) Fax : (027)-(255)-(6173)
申請対象の領域	領域名： 医療に関する領域
科目名 (単位数)	科目名： 疾患・障害等のある人への生活支援・連携Ⅱ (2 単位)
申請する研修名	認定介護福祉士養成研修
研修認証実績	年 認証番号 () 年 認証番号 () 年 認証番号 ()
その他特記事項	

(別紙2) 認定介護福祉士研修認証

認証申請科目に対する研修の内容

申請対象の領域	医療に関する領域	
科目名	疾患・障害等のある人への生活支援・連携Ⅱ	
(1) 提供する研修について		
研修名	認定介護福祉士養成研修	
教育目的	<ul style="list-style-type: none"> ・【疾患・障害等のある人への生活支援・連携Ⅰ】における基礎的な医学的知識を活用して状態に応じた生活支援の実践や医療職等の他職種との連携について理解させる。 	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生活支援で行う医療行為に必要な知識を理解し、状態に応じた生活支援を実践できる。 ・症状や使用している薬から利用者の状態を分析できる ・在宅療養者が使用する医療機器の取扱い上の留意点について理解し、説明できる。 ・急変時等の病態等について学び、その対応について判断できる。 ・医療職等の他職種との連携について判断できる。 	
研修内容（研修プログラム）	含むべき内容	研修プログラム
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生活支援で行う医行為や実践する際の留意点 <ul style="list-style-type: none"> ・医行為と医行為でない行為 ・介護職員等による喀痰吸引など ○ 在宅療養者が使用する主な医療機器の取扱いに関する留意点（吸引機、HOT、人工呼吸器等） ○ 生活支援における急変時対応 <ul style="list-style-type: none"> ・状態把握と観察のポイント ・急変時の判断とその対応など（意識レベルの低下、発熱、脱水、悪心、嘔吐、下痢、食欲不振、喘鳴、呼吸困難、誤嚥、動悸、不整脈、胸痛、麻痺） ○ 生活支援における服 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前課題①（5時間） 利用者の生活支援で行う医行為や実践する際の留意点 <ul style="list-style-type: none"> ・医行為と医行為でない行為 ・介護職員等による喀痰吸引、経管栄養法など。 ・実際の介護現場での実際の医行為の事例を含む。 ・A4レポート用紙10枚以上まとめる。 上記の課題は演習で使用するのでプライバシーに配慮し、本人又は家族、所長等に使用目的を説明し、了解を得ること。 ・事前課題②（5時間） 在宅療養者が使用する主な医療機器の取扱いに関する留意点（吸引器、HOT、人工呼吸器等） <ul style="list-style-type: none"> ・実際の介護現場での実際の医行為の事例についてA4レポート用紙10枚以上にまとめること。 ・講義①（2時間） <ul style="list-style-type: none"> ・生活支援で行う医療行為に必要な知識を理解し、状態に応じた生活支援を実

<p>薬管理に関する知識や留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常の使用頻度の高い薬の目的と副作用（消化器系、呼吸器系、循環器系、中枢神経系の薬） ・生活支援における服薬管理 ・アドヒアランス ・誤嚥の時の対応など <p>○ 主治医やかかりつけの薬剤師等との連携</p>	<p>践できるように講義する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習①（3時間） ・事前課題①で各自が調べてきた内容の医行為と医行為でない行為について、事例検討を行ない、状態に応じた生活支援を実践できるようにする。 ・講義②（2時間） ・生活支援における服薬管理に関する知識や留意点 ・日常の使用頻度の高い薬の目的と副作用（消化器系、呼吸器系、循環器系、中枢神経系の薬） ・生活支援における服薬管理 ・アドヒアランスや誤嚥時の対応などについて講義する。 ・在宅療養者が使用する医療機器の取扱い上の留意点について理解し、説明できるように講義する。 ・演習②（3時間） ・生活支援における服薬管理に関する知識や留意点 ・日常の使用頻度の高い薬の目的と副作用（消化器系、呼吸器系、循環器系、中枢神経系の薬） ・生活支援における服薬管理 ・アドヒアランスや誤嚥時の対応など ・事前課題②で各自が調べてきた内容の在宅療養者が使用する主な医療機器の取扱いに関する留意点の事例検討を行う。（吸引機、HOT、人工呼吸器等） ・講義③（2時間） ・生活支援における急変時対応 <ul style="list-style-type: none"> ・状態把握と観察のポイント ・急変時の判断とその対応（意識レベルの低下、発熱、脱水、悪心、嘔吐、下痢、食欲不振、喘鳴、呼吸困難、誤嚥、動悸、不整脈、胸痛、麻痺）について講義する。
---	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・医療職等の他職種との連携について判断できる。 ・演習③（3時間） ・急変時等の病態等について、事例を用いて検討し、対応方法について判断できる。 ・医療職等の他職種との連携について判断できる。実際の事例を用いて、今後の対応方法について検討し、判断できる。 ・事後課題③（5時間） 事前課題①②のうち1つを選択して改めて省察（リフレクション）を行い、まとめなおすこと。また、今後の介護実践の方向性や職場でどのように応用・展開していけるか具体的な方法や行動計画について提案すること。 <p>*参考テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 山内豊明「介護現場で活かすフィジカルアセスメント 利用者の生命と生活を支える知識と技術」、中央法規、2016. 2) 白井孝子「改訂介護に使えるワンポイント医学知識」、中央法規、2011.
n 研修方法	<p>■通学課程 ■課題学習</p> <p>○集合研修は講義と演習を組み合わせる。 ○課題学習は事前・事後課題としてレポート課題を課す。評価は担当講師が行う。</p>
研修時間	30 時間（集合研修 15 時間+課題学習 15 時間）
修了要件	<ol style="list-style-type: none"> 1. 当該科目の対面授業の全課程に出席していること。 （出欠席・遅刻・早退の取り扱いは別紙4のとおり） 2. 事前・事後レポート、計画書等の提出の指示がある科目の場合、提出期限内に提出し合格していること。 3. 当該科目が示す修了評価において、C評価以上であること。 <p>* 修了評価について 筆記試験及びレポート試験の評価は別紙 5 の評価基準を用いて実施する。</p>
講師要件（講師の選定基準）	<p>*当該科目における十分な知識、専門性を有し、講師等の教育経験がある者 *補助者についても当該科目における十分な知識・専門性を有し、講師などの教育経験がある者</p>
(2)受講者について	
受講対象	・「認定介護福祉士概論」を修了していること。

(受講要件)	・「疾患・障害のある人への生活支援・連携Ⅰ」を修了していること。
修了評価（習得度、研修成果）	到達目標に達しているかをレポート試験及び筆記試験を実施し、別紙5の評価基準に照らして実施する。 尚筆記試験は50問で実施し、100点満点中60点以上で合格(修了)とする。
(3)研修の環境条件	
定員（講師の配置基準）	30名(講師1名) 演習時も同一の講師が行う。 *講師1名。補助講師(ファシリテーター)の配置については、当該講師の授業運営に応じ、適切に配置する。 *尚、その際には当該講師が意図したことを理解し、適切な介入ができる能力を有する者であり、受講生8~10名に対し1名を置くものとする。
開催場所（都道府県）	群馬県

コマシラバス 以下の表は対面授業 15 回分として

回数	科目名 (回ごとの項目)	時間(分)	内容
1	疾患・障害等のある人への生活支援・連携Ⅱ	60分	講義① (2時間) 生活支援で行う医療行為に必要な知識を理解し、状態に応じた生活支援を実践できるように講義する。
2	疾患・障害等のある人への生活支援・連携Ⅱ	60分	講義② 生活支援で行う医療行為に必要な知識を理解し、状態に応じた生活支援を実践できるように講義する。
3	疾患・障害等のある人への生活支援・連携Ⅱ	60分	演習① (3時間) 事前課題①で各自が調べてきた内容の医行為と医行為でない行為について、事例検討を行ない、状態に応じた生活支援を実践できるようにする。
4	疾患・障害等のある人への生活支援・連携Ⅱ	60分	演習② 事前課題①で各自が調べてきた内容の医行為と医行為でない行為について、事例検討を行ない、状態に応じた生活支援を実践できるようにする。
5	疾患・障害等のある人への生活支援・連携Ⅱ	60分	演習③ 事前課題①で各自が調べてきた内容の医行為と医行為でない行為について、事例検討を行ない、状態に応じた生活支援を実践できるようにする。
6	疾患・障害等のある人への生活支援・連携Ⅱ	60分	講義① (2時間) 生活支援における服薬管理に関する知識や留意点 ・ 日常の使用頻度の高い薬の目的と副作用 (消化器系、呼吸器系、循環器系、中枢神経系の薬) ・ 生活支援における服薬管理 ・ アドヒアランスや誤嚥時の対応について講義する
7	疾患・障害等のある人への生活支援・連携Ⅱ	60分	講義② ・ 在宅療養者が使用する医療機器の取扱い上の留意点について理解し、説明できるように講義する。
8	疾患・障害等のある人への生活支援・連携Ⅱ	60分	演習① (3時間) ・ 生活支援における服薬管理に関する知識や留意点 ・ 日常の使用頻度の高い薬の目的と副作用 (消化器系、呼吸器系、循環器系、中枢神経系の薬) ・ 生活支援における服薬管理 ・ アドヒアランスや誤嚥時の対応について、事例検討を行う。
9	疾患・障害等のある人への生活支援・連携Ⅱ	60分	演習② 事前課題②で各自が調べてきた内容の在宅療養者が使用する主な医療機器の取扱いに関する留意点

			の事例検討を行う。(吸引器、HOT、人工呼吸器等) ・安全対策と危機管理対策を含む。
10	疾患・障害等のある人への 生活支援・連携Ⅱ	60分	演習③ 事前課題②で各自が調べてきた内容の在宅療養者が使用する主な医療機器の取扱いに関する留意点の事例検討を行う。(吸引器、HOT、人工呼吸器等) ・安全対策と危機管理対策を含む。
11	疾患・障害等のある人への 生活支援・連携Ⅱ	60分	講義① 生活支援における急変時対応 ・状態把握と観察のポイント ・急変時の判断とその対応 (意識レベルの低下、発熱、脱水、悪心、嘔吐、下痢、食欲不振、喘鳴、呼吸困難、誤嚥、動悸、不整脈、胸痛、麻痺)について講義する。
12	疾患・障害等のある人への 生活支援・連携Ⅱ	60分	講義② 医療職等の他職種との連携について判断できる。
13	疾患・障害等のある人への 生活支援・連携Ⅱ	60分	演習① 生活支援における急変時対応 ・状態把握と観察のポイント ・急変時の判断とその対応 (意識レベルの低下、発熱、脱水、悪心、嘔吐、下痢、食欲不振、喘鳴、呼吸困難、誤嚥、動悸、不整脈、胸痛、麻痺)について、事例検討を行う。
14	疾患・障害等のある人への 生活支援・連携Ⅱ	60分	演習② 生活支援における急変時対応 ・状態把握と観察のポイント ・急変時の判断とその対応 (意識レベルの低下、発熱、脱水、悪心、嘔吐、下痢、食欲不振、喘鳴、呼吸困難、誤嚥、動悸、不整脈、胸痛、麻痺)について、事例検討を行う。
15	疾患・障害等のある人への 生活支援・連携Ⅱ	60分	演習③ 医療職等の他職種との連携について判断できる。 ・実際の現在の状況と今後の課題について検討していく。

(別紙3) 認定介護福祉士研修認証更新

認証更新申請する研修の実施体制等 (届出事項)

(1)研修の実施予定	
実施日	① 平成30年 9月
	②
	③
開催場所 (会場)	① 群馬医療福祉大学 前橋キャンパス
	②
	③
(2)講師	
担当、氏名及び略歴	<p>担当する講義等 疾患・障害等がある人への生活支援・連携 I 小林洋子 学校法人 昌賢学園 群馬医療福祉大学講師 (職歴) 医療法人刀陽会 綿貫病院 国立渋川病院 第3病棟勤務 (看護師・助産師) 学校法人 パース学園 群馬パース福祉専門学校 「介護福祉学科」 I部・II部 学校法人 昌賢学園 群馬医療福祉大学助教 (講師、研究活動等) 介護福祉士養成施設 介護担当教員特別研修会終了 (H8年1月12日) 介護支援専門員取得 (H13年3月16日) 主任指導者養成講習終了 (H16年9月26日) 医療的ケア教員講習会終了 (H25年2月15日) 介護福祉士国家試験実地試験委員 (H12年3月～H20年3月) 群馬県立吾妻高等学校「医療的ケア」喀痰吸引と経管栄養 群馬県立安中総合学園高等学校 「介護職員初任者研修」 群馬県立藤岡北高等学校 「介護職員初任者研修」 群馬県立高崎高等特別支援学校 「介護職員初任者研修」</p>
	<p>主な著書</p>
	<p>担当する講義等 疾患・障害等がある人への生活支援・連携 I・II 小林洋子 (学校法人 昌賢学園 群馬医療福祉大学) 履歴等は同上</p>
(3)実施体制	
研修の企画運営の組織 (担当部局・人員)	<p>認定介護福祉士養成委員会 (13名) 群馬県健康福祉部 介護高齢課 1名 (オブザーバー) 群馬県介護福祉士養成施設協会 1名 群馬県介護福祉士会 1名 群馬県老人福祉施設協議会 1名 群馬県老人保健施設協会 1名 群馬県地域密着型サービス 1名 連絡協議会</p>

	群馬医療福祉大学 2名 短期大学部(事務局) 2名 運営担当 群馬医療福祉大学 短期大学部 3名 ・研修委員会において各科目の教育目的や到達目標を確認し、担当講師と科目間の連関や留意点について共有する。 ・研修委員会のメンバーは研修の補助を行いつつ、研修内容の整合や新たに含むべき内容があるかなど、研修見直しの一助も担う
研修の企画運営に関する諸規程	研修委員会設置要綱
研修管理責任者職名	群馬医療福祉大学 短期大学部 教授
研修管理責任者氏名	白井 幸久
機構問合先部署	群馬医療福祉大学 短期大学部 事務局
機構問合先担当者氏名	矢嶋 栄司
機構問合先電話番号/FAX	電話 027-253-0294 / FAX 027-253-0294
機構問合先 e-mailアドレス	shimizu-k@shoken-gakuen.ac.jp
受講問合先部署	群馬医療福祉大学 短期大学部 事務局
受講問合先担当者氏名	矢嶋 栄司
受講問合先電話番号/FAX	電話 027-253-0294 / FAX 027-254-0294
受講問合先 e-mailアドレス	shimizu-k@shoken-gakuen.ac.jp
(4)研修履歴の管理体制	
受講者への付与単位部門	群馬医療福祉大学 短期大学部 事務局
受講履歴の管理方法	*紙媒体及びデータによる台帳管理する。 *外付けディスクにバックアップデータを保管する。 *データの保存期間は10年間とし、その後は外付けディスクにてデータを保管する。 *個人情報の取り扱いにあたっては、法律を遵守する。
受講履歴の証明	全課程を修了した者には、認定介護福祉士養成委員会により修了証書を発行する。
管理責任者氏名	白井 幸久
管理担当者氏名	矢嶋 栄司